

教養コース 国際社会学

定員 50名

東アジア各国から学び、日本の未来・共生を考える

第4回 アジアによみがえる共存共栄の思想

ASEAN(東南アジア諸国連合)

日時 令和5年11月18日(土)
13:30~15:30

場所 鶴瀬公民館第三集会室

講師 日本 AALA 連帯委員会
国際部研究員
第三回に引き続き松宮敏樹氏

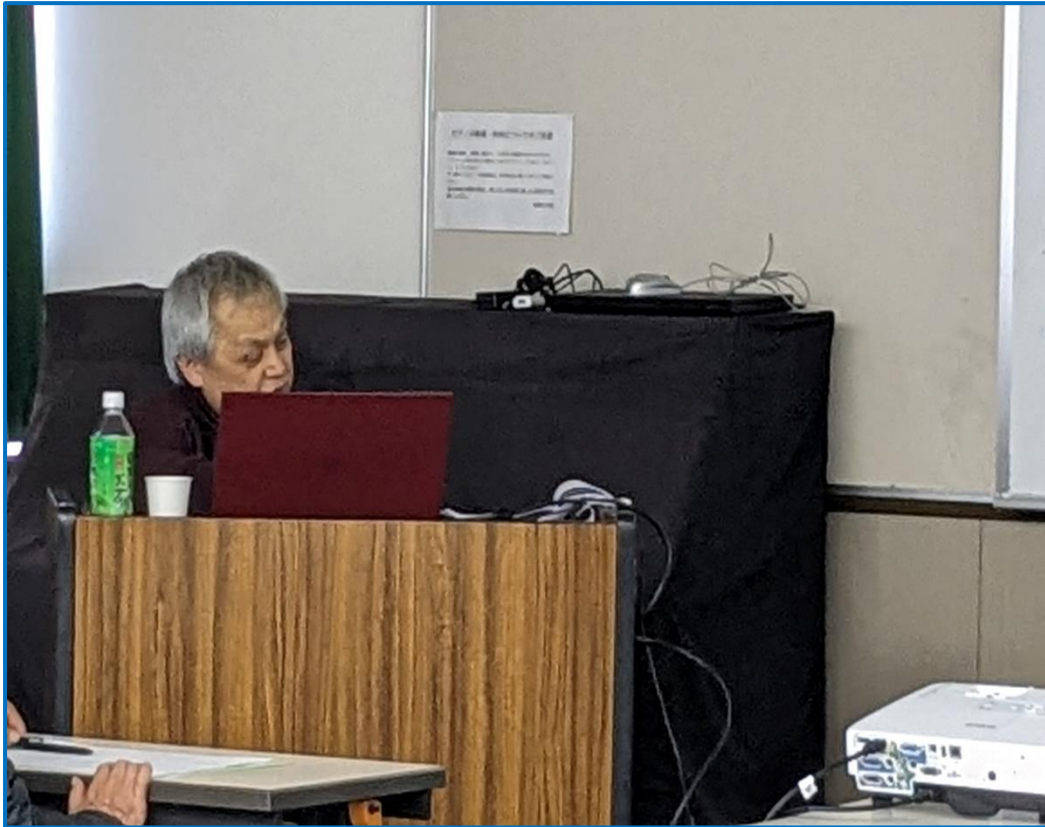
参加者 23名



○ 前回（第三回）に引き続き加藤久美子担当理事の司会により講座が開始されました。



講座の内容



○ 以下の記述ならびに画像は配布資料、プレゼンテーション・スライドからの抜粋です。

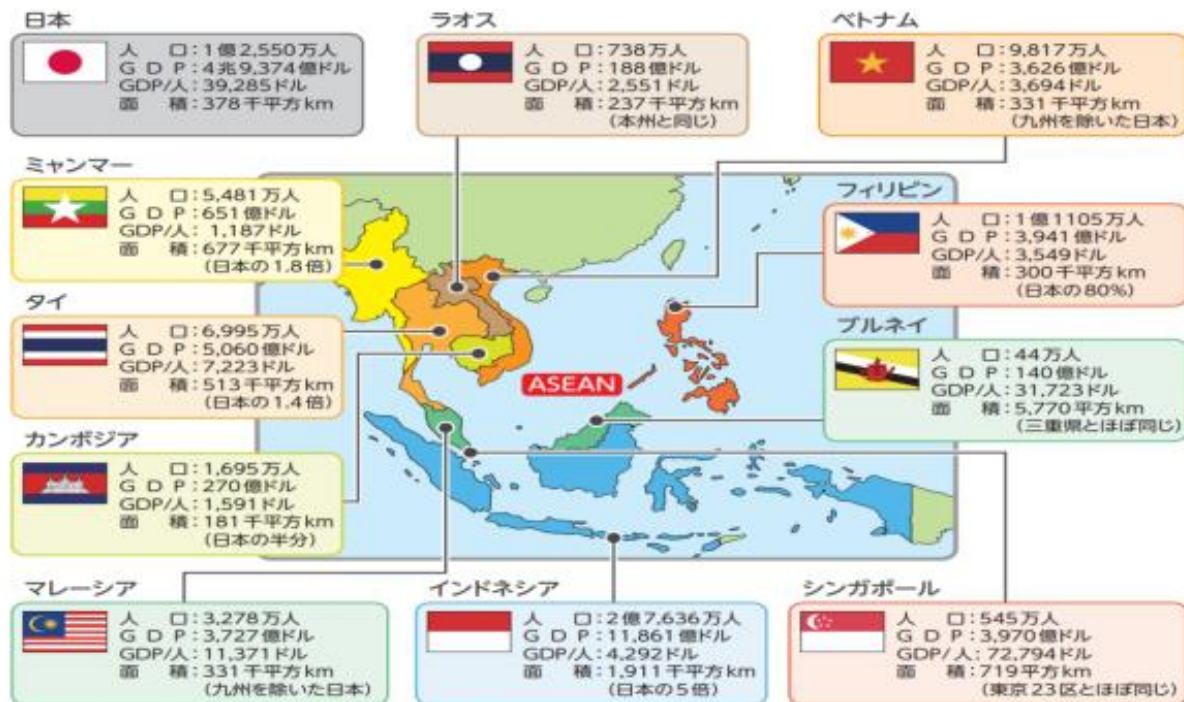
主題：アジアによみがえる共存共栄の思想―

ASEAN（東南アジア諸国連合）

アジアの中で、東南アジアは経済成長と平和の創出という二つの面から世界の注目を集めている。その原動力になってきたのが ASEAN だ。ASEAN は世界にある地域機構のなかの「成功例」と評価されていて、北欧の平和研究者から「ノーベル平和賞候補」に挙げられたこともある。しかし、日本では正當に評価されることは少ない。ASEAN は米国よりなのか、中国よりなのか、という見方で判断されがちだ。

しかし、ASEAN は大国に従属しない自立した組織として米国、日本、中国などすべての国と協力関係を結びたい、と考えている。その ASEAN を一から知ってみよう。

その1: ASEANにはどの国が参加しているか、その現状



出典: IMF, World Bank, 財務省貿易統計

○ 参加国の多様性と共通性

- 宗教 : イスラム教=インドネシア、マレーシア、ブルネイ
 仏教 = タイ、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナム、シンガポール
 キリスト教=フィリピン
- 文化 : 世界遺産、仏教文化、キリスト教文化、イスラム教文化
- 公用語 : 英語 (国内は多様)
- 歴史 : 欧米の植民地、日本の侵略の共通性あり
 英国の植民地 = シンガポール、マレーシア、ミャンマー
 フランスの植民地=ベトナム、カンボジア、ラオス (仏領インドシナ)
 米国 = フィリピン
 オランダ = インドネシア
 注) タイだけは独立をたもった
 日本の侵略 = 昭南島 (シンガポール)、泰緬鉄道 (タイ)、
 死の行進 (フィリピン)、白骨街道 (ミャンマー)
 労務者 (インドネシア)

*各地には記録の石碑や施設が残され、記憶引くイベントも毎年行われる。

○ ASEAN 10 国全体の状況

(1) 現在のASEAN (2021年) 外務省ホームページから

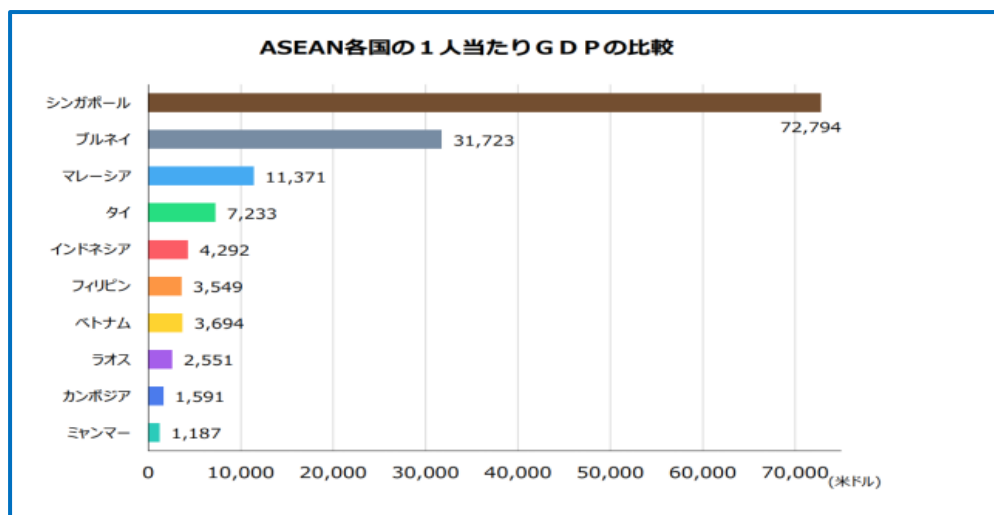
加盟国 (10カ国 : ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)			
面積	449万km ²	日本(37.8万km ²)の11.9倍	世界(1億3,454万km ²)の3.3%
人口	6億7,333万人	日本(1億2,568万人)の5.4倍	世界(78億3,663万人)の8.6%
GDP	3兆3,433億米ドル サン・オーガスティン教会(マニラ)	日本(4兆9,374億米ドル)の67.7%	世界(96兆1,001億米ドル)の3.5%
1人当たりGDP	4,965米ドル	日本(39,285米ドル)の12.6%	世界平均(12,263米ドル)の40.5%
貿易額(輸出+輸入) (2020年)	2兆7,960億米ドル	日本(1兆2,464億米ドル)の2.2倍	世界(34兆8,982億米ドル)の8.0%

(出所) 面積、人口、GDP : World Bank, World Development Indicators database

貿易 : IMF, Direction of Trade Statistics

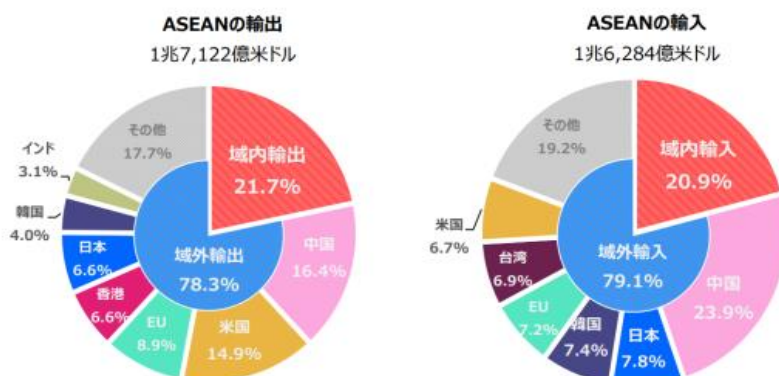
(注) 1人当たりGDPは、名目GDPを人口で除して当室で算出
貿易額については2020年の輸出入統計を使用

○ 経済状況



(6) ASEANの貿易(2021年)

○ ASEANは輸出、輸入とも、ASEAN域内が20%前後を占める



その2: 「平和の地域」めざす ASEAN の努力と成果

○ ASEAN は戦乱への反省と克服の努力から生まれた

ASEAN は1967年8月に創設されたが、当時はベトナム戦争のさなかで、SEATO（東南アジア条約機構）という軍事同盟があった。SEATO には米国、フランス、英国、オーストラリアや米軍が基地を置くタイ、フィリピンが参加し、ベトナムなどと戦った。つまり、東南アジアは分裂し、相争う関係だった。この背景には、かつての植民地宗主国からの独立をめざす動きがあり、さらにソ連、中国、米国の冷戦構造があった。やがてベトナムが勝利して、1977年には SEATO も解散した。この過程で、タイ、マレーシアを中心に大国支配による対立と戦乱を克服し、自立と平和をめざす地域協力機構をつくる動きが進んだ。中心になったのがタイの外相、コーマン氏だった。

コーマン氏は以下の様に回想している。

「世界の経験からも弱い国はより強い国の支配に頼るよりも、近接諸国間の相互支援に頼るほうがいい。強国は弱小国の利益よりも自国の利益のために動くものだ」「もう一つの原則は、我々の協力は非軍事的なものであるべきだ。軍事同盟をつくらせようという動きがあったが、我々は抵抗した。賢明に正しく軍事的絡み合いを除外して経済面で協力するという決意を貫いた」

こうした経過を経て生まれたのが ASEAN だ。設立宣言（バンコク宣言、67年8月）は、「平等と協力の精神で」「繁栄と平和の共同体を目指すことを掲げ、この目的や原則に賛成する「すべての東南アジア諸国に門戸を開放する」とうたった。つまり、「敵」だったベトナムなどにも将来の加入を認めた。実際、95年から99年にかけてベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアの4か国が加盟し、東南アジアを網羅する10か国の体制が完成した。

○ ASEAN の発展—東南アジア友好条約から東アジア首脳会議まで

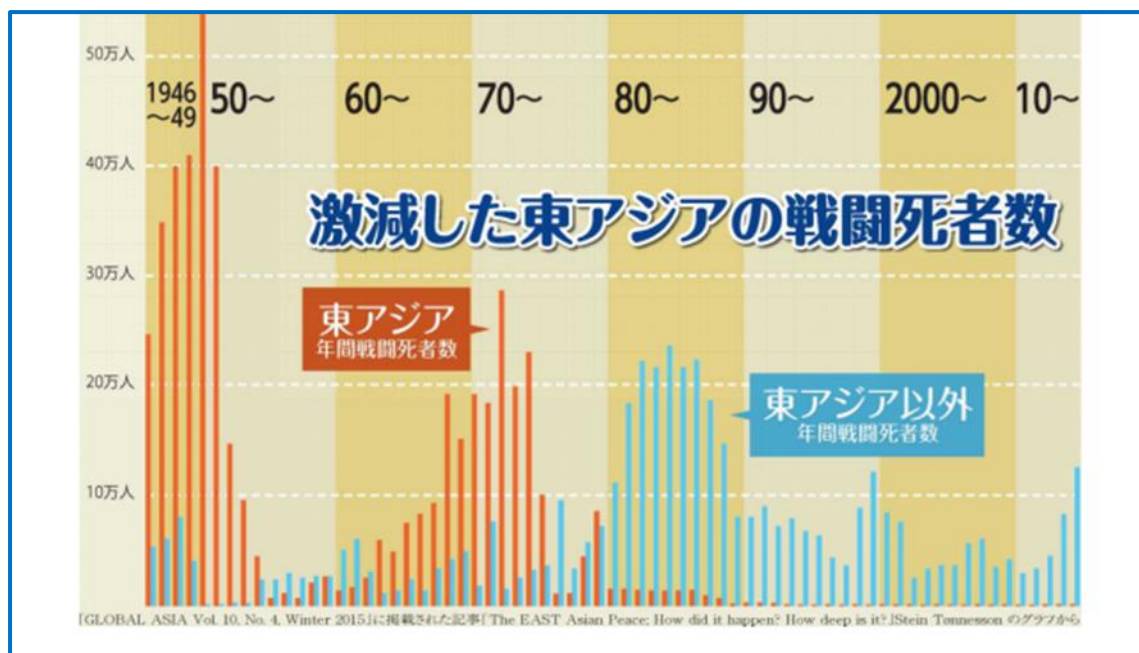
ASEAN は76年に参加国の共通の基礎となる東南アジア友好協力条約（TAC）を締結。加盟国が批准するだけでなく、ASEAN が「対話国」とする東南アジア外の国にも条約加入を求めた。2022年末までには、TAC 加入国は50か国・機構（EU）となった。米国、中国、日本、インド、韓国、北朝鮮なども含まれる。

TAC の内容が大事だ。

- ① 全ての国の独立、主権、平等、領土保全及び主体性の相互尊重
- ② 意見の相違または紛争を平和的手段で解決する
- ③ 武力による威嚇又は武力の行使を放棄する

などを規定している。また、ASEAN には「東南アジア非核地帯条約」がある。

ASEAN の成果を示す一つのデータがある。（前回第 3 回目に記載）



これはスウェーデンのウプサラ大学の研究チームが世界の戦闘死者数のデータを地域別に整理した結果をグラフ化したものだ。これをみると、東アジアの戦闘死者数は70年代から激減し、80年以降は非常に少なくなっている。逆に、中東などでの死者数が増大している。この要因のひとつに ASEAN の役割が指摘されている。

○ 会議を積み重ねる ASEAN

ASEAN は TAC をもとに現在まで重層的な「対話の仕組み」を実現してきた。ASEAN 内部では毎年加盟国首脳が参加する ASEAN 首脳会議を開催し、外相会議、防衛相会議など各閣僚レベルから事務担当レベルまで頻繁に開く。対外的にも、東アジア首脳会議、ASEAN 地域フォーラムなどを毎年開催している。東アジア首脳会議には、ASEAN 10 か国の他、米国、中国、ロシア、日本、韓国、オーストラリア、インド、ニュージーランドの 8 か国が参加している。

ASEAN 首脳会議は大統領など首脳クラスが一堂に会する重要な会議だが、運営の責任をもっているのはあくまでも ASEAN だ。これを ASEAN の「中心性」とよび、「運転席にいたのは ASEAN だ」と自負している。これだけの規模の首脳会議を毎年定期的に行うことにも ASEAN の現在の外交力が示されている。

○ 大国との対応の事例研究・・・フィリピンの米軍基地問題

フィリピンはもともと米国の植民地だった。独立後も日本のように巨大な米軍基地が存続し、ASEANの中でも最後まで残った巨大米軍基地だった。(タイは76年に米軍基地を撤去した)現在のマルコス大統領の父であるマルコス大統領の独裁政権が86年に国民運動で打倒され、アキノ大統領誕生。新憲法で「自立外交」「戦争の放棄」「米軍基地の存続は上院の3分の2以上の賛成が必要」と決めた。91年に上院は過半数の反対で米軍基地存続を拒否。米軍は撤退した。これでASEANから米軍の恒久基地はなくなった。その後、米軍基地は民間転用されてフィリピン経済の起爆剤に。

他方、中国が南シナ海でフィリピンの排他的経済水域(EEZ)に侵入するなど、中国・フィリピン間で紛争が続発している。フィリピンはASEANと一体で中国に国際法の順守を求め、紛争の平和解決を目指している。2002年にはASEANと中国で「南シナ海行動宣言」を採択し、紛争の平和解決を確認した。それでも問題はかいけつせず、現在、拘束力のある「南シナ海行動規範」の協議中だ。その間も、中国の現状変更の行動が続いているため、フィリピンは米軍との関係を一定程度復活させてきた。だが、「米軍基地」や常駐部隊はおかせず、米軍の一時駐留部隊がフィリピン軍基地に滞在し、施設を利用する範囲に制限している。フィリピン軍基地から中国攻撃をさせない、とマルコス大統領は明言している。ASEANの原則をふまえながらの対応だ。軍事力に頼らない、戦争ではなく外交をとという努力が一貫している。

○ 膨大な資料を前にスクリーンと資料を見比べながらの参加者



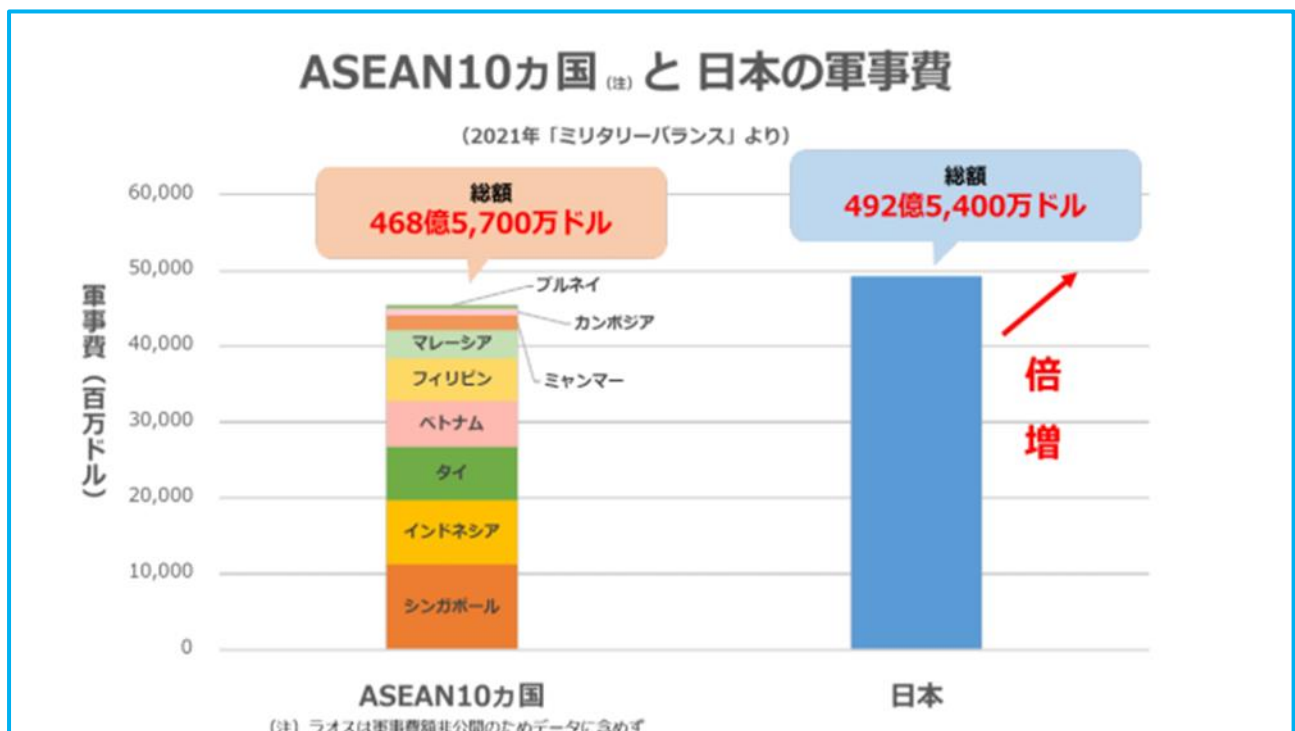
その3: ASEAN の課題

これまでの成果をふまえて新たな努力が求められている

- 米中対立の中で「平和の機構」という独自の役割をどう果たすか。その一つが「ASEAN インド太平洋構想」、米中のいずれも排除しない、いずれも敵にしないインド太平洋構想だ。中国を敵視する米国や日本のインド太平洋機構とは異なる独自性がある。
- 南シナ海での領有権をめぐる争い—とりわけ中国との争いをどう対話と外交で解決していくか。
- ASEAN 内の民主主義や人権をめぐる問題—特にミャンマーの軍部によるクーデターと国民抑圧をどう解決するか。各国内の問題にどう対応するか。

戦争を回避し、紛争の外交的平和的解決を追求する ASEAN の努力に注目したい。

○ ASEAN と日本の軍事費の比較

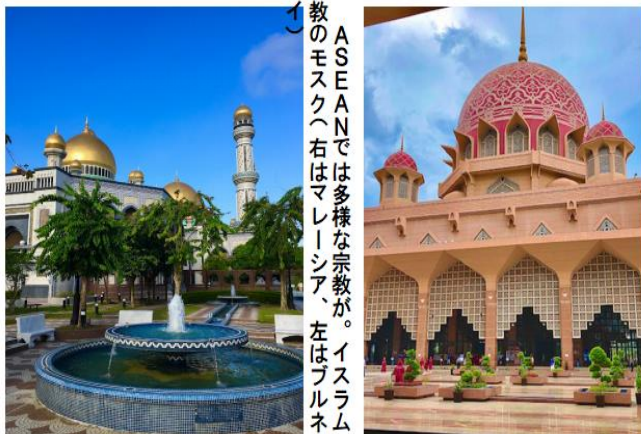
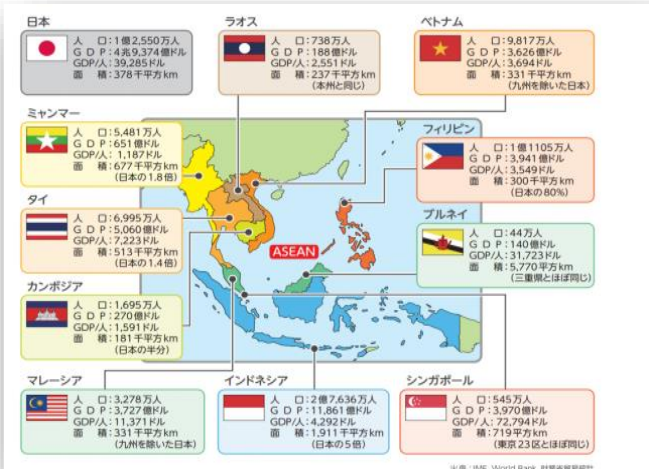


添付資料： プレゼンテーションで使用されたスライド一覧

いま注目されるアジアの
共存共栄の思想

ASEAN(東南アジア諸国 連合)を知っていますか

以下にASEAN加盟10か国の概要。日本との比較(外務省ホームページ)



ASEAN最大の国インドネシア

- 最大人口、最大面積、最大GDP
- ASEAN本部事務局があり、各国大使常駐
- 世界最大のイスラム教国
- 非同盟諸国会議の大国・米中に従属せず
- 建国5原則(唯一神、人道主義、統一、民主主義、社会正義) 多様性の中の統一



インドネシア首都ジャカルタにある国家独立記念塔(モナス)1975年完成。高さ17メートル。オランダからの独立の意義を示す。底部には歴史博物館)



日本軍の侵略の歴史も忘れない。シンガポールの「血債の塔」。日本軍は1942年にシンガポールを占領。「昭南島」とした。大虐殺された華人を悼む塔が建設された



シンガポールの英軍を降伏させた日本軍(1942年)



フィリピン編

フィリピンでは1991年9月に米軍基地撤去を議会上院が決定。これにより、ASEANから米軍基地がすべてなくなった。その後、一時駐留の米軍に比軍施設の利用を認めたが、米軍基地は現在も置いていない。



米軍基地撤去を求める運動が国内で盛り上がった(1991年)



フィリピン議会上院が米軍基地を存続させる新基地条約の批准を拒否したさい採決の瞬間(1991年9月16日)
この結果、翌92年11月に米軍基地は撤去された。



元米海軍スービック基地は現在、民間転用されて民間船舶が寄港する平和の港になった

ASEANの平和創造力① 戦乱の反省から出発して東南アジアを平和の地域にする決意

- ・★ASEAN設立（1967年8月）にかけた思い
- ・植民地からの独立、大国の支配から脱し、地域全体の協力めざす。
- ・軍事同盟化否定「一部の人は軍事同盟形成に向かわせようとした。私たちは抵抗し、軍事的なかわりを排除した」（設立メンバーのタイのコーマン外相）

ASEANの平和創造力②理念

- 東南アジア友好協力条約（TAC）「紛争の平和的解決」 現在50か国加入
- 東南アジア非核地帯条約 非核兵器
- 東アジア首脳会議 大国ふくむ協議の場
- ASEANインド太平洋構想（AOIP）敵視せず

ASEANの平和創造力③条約と構想の内容

- ・★東南アジア平和友好協力条約（TAC）76年発効
「武力による威嚇又は武力の行使を慎み、常に締約国間で友好的な交渉を通じてその紛争を解決する」（第13条）
- ・★ASEANインド太平洋構想（AOIP）19年6月
「対立ではなく、対話と協力のインド太平洋地域」を掲げ、すべての国を包摂する。ASEANが主導的役割（中心性）を果たす。米中日も歓迎する。米日などは中国に対抗する「自由で開かれたインド太平洋」構想をすすめる。「クアッド」の軍事同盟化
- ・★EAS（東アジアサミット）2005年年設立
ASEAN+ 米中日など18か国が参加。インド太平洋規模でTAC, AOIP実現めざす。中国には南シナ海での衝突の平和的解決要求

ASEANの平和創造力④重層的な機構（毎年会議）

- ・●ASEAN（外相会議・首脳会議）年2回開催
- ・●ASEAN+ 3（日本・中国・韓国）
- ・●東アジア地域包括的経済連携協定（RCEP）
- ・（ASEAN+ 5 = 日・中・韓・豪・NZ）
- ・●東アジア首脳会議（ASEAN+ 8（日・中・韓・米・インド・露・豪・NZ）
- ・●拡大ASEAN国防相会議（ASEAN+ 8 = 前同）
- ・●ASEAN地域フォーラム（ASEAN+ 17 = 前同+ カナダ・EU・北朝鮮・パキスタン・モンゴル・東チモール・パングラディッシュ・スリランカ・パプアニューギニア）

ASEANの平和創造力⑤教訓

- 徹底して話し合う外交力。合意重視の団結力
- 軍事力頼りでなく外交重視 恐怖でなく安心
- 排除・敵視の論理や姿勢をとらない
- 大国にも自主性保持。「運転席は我々」
- 軽視できない経済力、技術力、市場を持つ

ASEANの現在の課題

- ・●米中対立のなか自主性どう貫くか
- ・●南シナ海、台湾で、中国・米国にどう対応するか
- ・●ミャンマーはじめASEAN内の民主主義の危機にどう対応するか

